教育プログラム・コースの概要

		<u>хнин</u> ,		- /\v/1	70 ~		
大学名等	東京科学大学拠点連携校共通						
教育プログラム・ コース名	連携7校共通:難治性がん性疼痛に対する集学的アプローチ連携コース (インテンシブコース)						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、その他の医療職(公認心理師、理学療法士、 作業療法士、言語聴覚士等)						
修業年限(期間)	1年						
養成すべき人材像	・がん性疼痛の種類やメカニズムを理解し、がん性疼痛を緩和するための各種アプローチに関する専門的な知識・スキルを身につけ、適切に実践できる医療従事者。 ・がん患者が抱える全人的苦痛を適切に評価でき、他の医療従事者とともに疼痛緩和のための有機的なチームアプローチを実践できる医療従事者。						
修了要件・履修方 法	本教育プログラム・コースで定める講義の7割以上を履修し、連携大学での実習に参加の上、試験に合格すること。						
履修科目等	<講義>「がん性疼痛概論」「がんサバイバーの痛み」「神経ブロック」「緩和放射線治療」「緩和IVR治療」「骨転移治療」「精神・心理的ケア」「慢性疼痛に対する心理療法」「がん患者に対するリハビリテーション」「鍼灸治療」「多職種協働・チーム医療」等 <実習> 連携大学での実習に参加する(実習内容については選択制) (例)緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、ペインクリニック(神経ブロックや鍼灸治療を含む)、慢性疼痛に対する多職種チーム医療、骨転移キャンサーボード、がんリハビリテーション等						
がんに関する専門 資格との連携	・日本緩和医療学会認定医・専門医、ペインクリニック学会専門医 ・認定看護師(緩和ケア、がん性疼痛看護)、専門看護師(がん看護) ・緩和薬物療法認定薬剤師 等						
教育内容の特色等 (新規性・独創性 等)	がん性疼痛は時に難治性で薬物療法だけでは緩和が困難である。本コースでは、 難治性がん性疼痛やがんサバイバーの慢性痛を緩和するための、神経ブロック・ 放射線治療・IVR治療・骨転移治療・心理療法・運動療法・鍼灸治療等の様々な アプローチに関する専門的知識やスキルの習得が可能となっている。 また、多施設・多職種が連携した研修内容となっている点が特徴であり、受講者 は希望する施設にて、がん診療の現場を見学したり、手技を習得したりすること ができる。						
指導体制	緩和医療専門医、ペインクリニック専門医、緩和薬物療法認定薬剤師、専門・認 定看護師、公認心理師・臨床心理士、理学療法士等が直接指導にあたる。						
修了者の進路・ キャリアパス	がん拠点病院や地域の中核的病院において、医療チームの一員として、がん患者の苦痛の緩和やQOLの向上に貢献することが期待される。また、将来的には上記専門資格の取得につながることが期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学す る人数を記載。 ※新規に設置したコースに限 る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	20	20	20	20	20	100
受入目標人数設定 の考え方・根拠	7大学からそれぞれ2〜4人/年の志願者が見込まれることから、受入れ目標人数を 20人/年と設定した。						
履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	15					15